



きのこ会議



作・夢野久作



登場人物

初茸

椎茸

松茸

蠅取り茸

お父さん

お母さん

お姉さん

坊ちゃん

◆晩秋の夜。茸達が演説をする。

◆ナレーター、初茸、椎茸、松茸、茸達

初茸、松茸、椎茸、木くらげ、白茸、鴈茸、ぬめり茸、霜降り茸、獅子茸、鼠茸、皮剥ぎ茸、米松露、麦松露なぞいうきのこ連中がある夜集まって、談話会を始めました。一番初めに、初茸が立ち上って挨拶をしました。

初茸 「皆さん。この頃はだんだん寒くなりましたので、そろそろ私共は土の中へ引き込まねばならぬようになりました。今夜はお別れの宴会ですから、皆さんは何でも思う存分に演説して下さい。私 が書いて新聞に出しますから」

皆がパチパチと手をたたくと、お次に椎茸が立ち上りました。

椎茸 「皆さん、私 は椎茸というものです。この頃人間は私 を大変に重宝がって、わざわざ木を腐らして私共の畑を作ってくれますから、私共はだんだん大きな立派な子孫が殖えて行くばかりです。今にどんな茸でも人間が 畠を作ってくれるようになって貰いたいと思います」

皆は大賛成で手をたたきました。その次に松茸がエヘンと咳払いをして演説をしました。

松茸 「皆さん、私共のつとめは、第一に傘をひろげて種子を撒き散らして子孫を殖やすこと、その次は人間に食べられることですが、人間は何故だか私共がまだ傘を開かないうちを喜んで持って行ってしまいます。そのくせ椎茸さんのような 畠も作ってくれません。

こんな風だと今に私共は種子を撒く事が出来ず、子孫を根絶やしに
されねばなりません。人間は何故この理屈がわからないかと思うと、
残念でたまりません」

と涙を流して申しますと、皆も口々に、

茸達 「そうだ、そうだ」

と同情をしました。

二場

◆毒茸が演説する。 ◆ナレーター、蠅取り茸、茸

するとこの時、皆のうしろからケラケラと笑うものがあります。見るとそれは蠅取り茸、紅茸、草鞋茸、馬糞茸、狐の火ともし、狐の茶袋なぞいう毒茸の連中でした。

その大勢の毒茸の中でも一番大きい蠅取り茸は大勢の真中に立ち上って、

蠅取 「お前達は皆馬鹿だ。世の中の役に立つからそんなに取られてしまうのだ。役にさえ立たなければいじめられはしないのだ。自分の仲間だけ繁昌すればそれでいいではないか。俺達を見ろ。役に立つ処でなく世間の毒になるのだ。蠅でも何でも片っぱしから殺してしまう。えらい茸は人間さえも毎年毎年殺している位だ。だからすこしも世の中の御厄介にならずに、繁昌して行くのだ。お前達も早く人間の毒になるように勉強しろ」

と大声でわめき立てました。

これ聞いた他の連中は皆理屈に負けて

茸 「成る程、毒にさえなればこわい事はない」
と思う者さえありました。

◆翌朝。家族が茸狩りに行く。

◆ナレーター、お父さん、お母さん、姉さん、坊ちゃん、毒茸

そのうちに夜があけて茸狩りの人が来たようですから、皆は本当に毒茸のいう通り毒があるがよいか、ないがよいか、試験してみる事にしてわかれしました。

茸狩りに来たのは、どこかのお父さんとお母さんと姉さんと坊ちゃんでしたが、ここへ来ると皆大喜びで、

父 「もはやこんなに茸はあるまいと思っていたが、いろいろの茸がずいぶん沢山ある」

母 「あれ、お前のようにむやみに取っては駄目よ。こわさないように大切に取らなくては」

姉 「小さな茸は残してお置きよ。かわいそうだから」

坊 「ヤアあすこにも。ホラここにも」と大変な騒ぎです。

そのうちにお父さんは気が付いて、

父 「オイオイみんな気を付けろ。ここに毒茸が固まって生えているぞ。よくおぼえておけ。こんなのはみんな毒茸だ。取って食べたら死んでしまうぞ」

とおっしゃいました。茸共は、成る程毒茸はえらいものだと思います。毒茸も

毒茸「それ見ろ」と威張っております。

処が、あらかた茸を取ってしまったってお父さんが、

父 「さあ行こう」

と言われますと、姉さんと坊ちゃんが立ち止まって、

姉 「まあ、毒茸はみんな憎らしい恰好をしている事ねえ」

坊 「ウン、僕が征伐してやろう」

といううちに、片っ端から毒茸共は大きいのも小さいのも
根本まで木っ葉微塵に踏み潰されてしまいました。

〈完〉

1場

談話会：^{だんわかい}「談話」とは、リラックスして会話をすることです。公式ではない会話、という意味合いがあります。「談話会」は、みんなが自由に言葉を交わすことができる会です。このお話の題名は「きのこ会議」ですが、「会議」は物事を決めるための集まり、という意味なので、内容的には「きのこ談話会」の方が合っているかもしれませんね。

重宝が(る)：^{ちゆうほう}大切にすること、宝物のように扱うことです。現代では「便利で、しょっちゅう使う」という意味で「重宝する」という言い回しをすることが多いです。

2場

繁昌(する)：^{はんじやう}「繁盛」とも書きます。にぎわって、数が増えたり、勢いが増したりすることです。現代では、お店が儲かることを言うことが多いです。

御厄介にな(る)：^{ごやっかい}面倒を見られること、誰かに助けてもらうことの丁寧な言い方です。手のかかる人のことを「厄介者」^{やっかいもの}と言ったりします。

3場

木っ端微塵：^{こぼみじん}「木っ端」とは、木を切った時に出る、小さな木くず、「微塵」はとても細かいくずのことです。「木っ端微塵」は、木っ端や微塵くらいまで、粉々に碎けることです。

きのこの紹介は、解説コーナーで！

KINOKO JAPONICA

日本のきのこたち



Gekidan Nono



吉田素夫 博士

1987年生まれ。
郊外の自然と適度に触れ合っ
て育つ。
ド文系の大学を卒業。
すっかり自然のありがたみを
忘れて過ごす。
2018年、夢野久作『きのこ
会議』に出会い、異常なま
での意欲を見せる。
以降、キノコの魅力に取り
憑かれ、あからさまにわか
ファンとなる。
まだキノコを収穫したこ
ともなければ、新種を発見
したこともない。
いつかキノコ博士を名乗
るべく、これから努力する
ことが期待される。
吉田素子にそっくり。

初茸 (ハツタケ)



- 正式名称：ベニタケ目 ベニタケ科 チチタケ属 ハツタケ
- 毒：×
- 季節：夏～秋。
- 環境：マツ科の樹下、地上。
- 色・形・大きさなど：直径3～10cm。半球体から浅い皿状へ成長。
- その他特徴：傷付くと赤ワイン色の乳液が出て、青緑色に変わる。
- 食べ方：焼き、揚げ、ご飯、汁物、煮物、漬け物。パサパサした食感。
- 歴史：江戸時代の文献に和名で登場するなど、古くから食用とされるが、栽培研究の歴史が無い。

松茸 (マツタケ)



- 正式名称：キシメジ科 キシメジ属 キシメジ亜属 マツタケ節 (マツタケはそれらの総称)
- 毒：×
- 季節：夏～秋。
- 環境：アカマツの樹下、マツ科の樹下。
- 色・形・大きさなど：柄が太長く、傘が丸い。
- その他特徴：地上に出て開ききってしまうと香りが落ちるため、収穫に手間と知識が必要。
- 食べ方：焼き、ご飯、汁物、煮物。生ではおいしくない。歯ごたえあり。香りが良い。
- 歴史：マツタケを象った縄文土器が出土。日本書紀にも登場。

椎茸 (シイタケ)



- 正式名称：ハラタケ目 キシメジ科 シイタケ
- 毒：×
- 季節：初夏～秋。
- 環境：広葉樹の枯れ木。
- 色・形・大きさなど：柄は短い円柱形。
- その他特徴：鮮度が落ちやすい。そっくりな毒キノコにツキヨタケがあるので要注意。
- 食べ方：焼き、鍋、スープ、茶碗蒸し、うどん、巻き寿司、炒め、天ぷら、煮物、干物。アジアで栽培。旨味成分が出汁になる。精進料理に欠かせない。好き嫌いが別れる。
- 歴史：江戸時代から栽培可能に。中国では紀元前から食用とされる。

木くらげ (キクラゲ)



- 正式名称：キクラゲ科 キクラゲ属 キクラゲ
- 毒：×
- 季節：春～秋。
- 環境：広葉樹の倒木、枯れ木、切り株の幹。
- 色・形・大きさなど：直径2～6cm。耳のような形で、プルプルしている。生えているときは透明感がある。
- その他特徴：キノコの中でも特に栄養価が高く、ビタミンD、鉄分、カルシウムなどを多く含む。
- 食べ方：煮物、炒め物等。アジアでよく食される。
- 歴史：江戸時代の文献に名前が登場する。

白茸 (シロタケ/シロシメジ)



- 正式名称：ハラタケ目 キシメジ科 キシメジ属 シロシメジ (白茸は方言。別名ヌノビキ)
- 毒：×
- 季節：晩秋。
- 環境：アカマツなど二針葉松林や広葉樹の混交林、ツガやモミにアカマツを交えた林。
- 色・形・大きさなど：白。古くなると淡褐色に。半球状から饅頭型になり最後は平たくなる。湿るとベタベタした感触に。
- その他特徴：無臭。姿が似ている茸、名前が似ているキノコが多数ある。
- 食べ方：多少苦みがあり、茹で落とす必要がある。

雁茸 (ガンタケ)



- 正式名称：テングタケ科 テングタケ属 ガンタケ
- 毒：△ (※下痢、吐き気など胃腸系の食中毒を起こすことがある)
- 季節：夏～秋。
- 環境：森の中の地上。
- 色・形・大きさなど：傘の直径は6～18cm。橙色または赤褐色で、薄褐色のイボが無数にある。
- その他特徴：鳥の雁に色が似ていることから命名。過去、加熱調理すれば食べられるとされていたが、近年加熱しても分解されない毒が微量に含まれることがわかり、食用とされなくなった。

ぬめり茸 (ヌメリタケ/ナメコ)



- 正式名称：モエギタケ科 スギタケ属 ナメコ (別名ナメタケ、ヌメリタケ)
- 毒：×
- 季節：秋。
- 環境：ブナやナラなどの枯れ木、切り株。
- 色・形・大きさなど：傘は明るい茶色、茎は白または明るい茶色。ゼラチン質でプルプルしている。
- 食べ方：味噌汁、おひたし、炒め物。傘が開いていないものは、直火焼きするとシャキシャキした歯ごたえがある。
- その他特徴：人工栽培も広く行われる。家庭栽培も可能。
- 歴史：人口栽培確立は大正時代。2011年、ゲームがヒットした。

霜降り茸 (シモフリタケ)



- 正式名称：ハラタケ目 キシメジ科 ムラサキシメジ属 ムラサキシメジ (参考文献より、ムラサキシメジを指す方言であると推測)
- 毒：×
- 季節：晩秋。
- 環境：落葉広葉樹林。列状や円弧になる。
- 色・形・大きさなど：傘は5~10cm、柄は4~8cm。初期は、美しい紫色。
- その他特徴：やや癖のある匂い。
- 食べ方：煮物、鍋物、吸い物。味や歯触りが優れている。
- 歴史：ヨーロッパでは古くから食用にされ、栽培されている。

獅子茸 (シシタケ/コウタケ)



- 正式名称：サルノコシカケ目 イボタケ科 シシタケ/マツハハリタケ科 コウタケ目 (コウタケの場合、和名がシシタケ)
- 毒：△ (※食べ方を間違えると苦みが残り中毒症状になる)
- 季節：秋。
- 環境：広葉樹林内の地上。
- 色・形・大きさなど：10~20cm。毛が密集し、動物のような模様。コウタケは醤油のような香りがするため、「香茸」と書く。
- その他特徴：コウタケと同種とされることもある。
- 食べ方：よく乾燥させて保存食とすると、香りが高くなる。炊き込みご飯、天ぷらなど。
- 歴史：海外でも、食用、染料など幅広く活用され、流通している。

鼠茸 (ネズミタケ/ホウキタケ)



- 正式名称：スッポンタケ目 ホウキタケ科 ホウキタケ (別名ネズミタケ)
- 毒：×
- 季節：秋。
- 環境：広葉樹、針葉樹混成林の地上付近。
- 色・形・大きさなど：高さ10~20cm。サンゴのように枝分かれる。先端は淡い赤色、成熟すると灰色になる。先端以外は白い。
- その他特徴：毒キノコであるハナホウキタケやキホウキタケと見た目似ているので要注意。
- 食べ方：ホイル焼き、炒め物、炊き込みご飯。火を通すとプリプリした食感になり、大変風味が良い。
- 歴史：おいしいため、日本では古くから食用として親しまれてきた。

皮剥ぎ茸 (ムキタケ)



- 正式名称：ガマノホタケ科 ムキタケ属 ムキタケ (参考文献にムキタケの別名としてカワハギキノコがあり、これを指すものと推測)
- 毒：×
- 季節：秋。
- 環境：枯れたミズナラ、ブナなどの幹。
- 色・形・大きさなど：傘の直径は3~15cm。薄い黄褐色。半円形。
- 食べ方：汁物、煮物、炒め物など。毛の生えた皮を剥いて食べる。秋田県では鍋に入れる習慣がある。
- 特徴：毒キノコであるツキヨタケによく似ているため、要注意。
- 歴史：山里で好まれてきた。昭和50年代から品種改良が試みられ、商業ベースに乗りつつある。

米松露・麦松露 (コメショウロ・ムギショウロ)



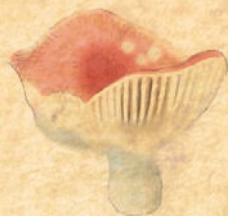
- 正式名称：イグチ目 ショウロ科 ショウロ
- 毒：×
- 季節：春・秋。
- 環境：松林の地中。
- 色・形・大きさなど：1~3cm。ジャガイモのような形。未熟なうちは白色で、米松露と呼び、尊ぶ。成熟すると褐色の麦松露になる。
- その他特徴：果物のような香り。
- 食べ方：食塩水で洗う。吸い物、塩焼き、茶碗蒸し、和え物、煮物、揚げ物。干しリンゴのような食感。美味。
- 歴史：発見が容易でないため希少価値がある。松林の管理不足に伴い減少傾向にある。近年、栽培が試みられている。

蠅取り茸 (ハエトリタケ)



- 正式名称：ハラタケ目 テングタケ科 テングタケ属 テングタケ (別名：ハエトリタケ、豹茸。またはテングタケの俗称)
- 毒：◎ (食後15～90分以内で、腹痛や下痢等の胃腸炎症状、痙攣や精神錯乱などの神経症状が発現する。意識不明に陥ることもある)
- 季節：夏～秋。
- 環境：針葉樹林・広葉樹林の地上。
- 色・形・大きさなど：傘は灰褐色で、白のイボがある。柄は白。
- その他特徴：ハエが舐めると中毒症状を起こして死ぬことから蠅取り茸と呼ばれる。よく似た茸にイボテングタケがあり、長年同種とされてきたが、近年、別種とされた。
- 食べ方：基本的に、食べることはできない。

紅茸 (ベニタケ)



- 正式名称：ベニタケ目 ベニタケ科 ベニタケ属 (ベニタケの総称)
- 毒：×
- 季節：夏～秋。
- 環境：林の地上。
- 色・形・大きさなど：大きさは大小様々。主に紅色だが、白、黒、暗褐色、黄褐色、黄色、橙色、桃色、紫色、緑色など多様。
- その他特徴：傷を付けると変色する種が多数。
- 食べ方：辛味や苦味が強いものが含まれ、そうでないものも一般に歯切れが悪いので、食用キノコとして広く利用されるものは少ない。
- 歴史：毒々しい色調のため毒キノコの代表として扱われてきた。すっかりイメージが定着しているが、実は全てが有毒ではない。

馬糞茸 (マグソタケ)



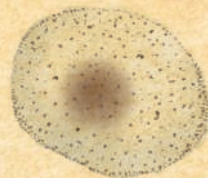
- 正式名称：マグソタケ (イグチ科 ヌメリイグチ属 ヌメリイグチの別名。馬糞に生えるキノコの俗称の可能性もある)
- 毒：△ (※食べ過ぎるとお腹を壊す。アレルギー症状が出る人もいる)
- 季節：夏～晩秋。
- 環境：マツ林やマツのある公園、庭などの地上に群生。
- 色・形・大きさなど：傘の直径は、3～10cm。褐色。
- その他特徴：湿気が多い場所では表面がぬめっている。多くの地方名を持つ。
- 食べ方：広く食用されている。

狐の火ともし (キツネノヒトモシ)



- 正式名称：スッポンタケ科 キツネノロウソク属 キツネノロウソク (火を灯すことから、キツネノロウソクと推測)
- 毒：×
- 季節：夏～秋。
- 環境：林、公園、道など、腐葉土の地上。
- 色・形・大きさなど：高さ5～12cmの棒状。軸はピンク色、先端はオリーブ色。
- その他特徴：先端に胞子が含まれ、悪臭がしてハエが集まるため、夢野は毒キノコとして登場させたのかもしれない。類似したキノコに、キツネノタイマツ、毒キノコのキツネノエフデがある。
- 食べ方：悪臭がするため、食べるのには向かない。

狐の茶袋 (キツネノチャブクロ)



- 正式名称：ホコリタケタケ科 ホコリタケ属 キツネノチャブクロ (別名 ミミツブシ、バクダン。ハラタケ目 ハラタケ科 ホコリタケも存在する)
- 毒：×
- 季節：梅雨～秋。
- 環境：林の地上、草地、庭、道など。
- 色・形・大きさなど：2～6cmで。全体に白く、先端の突起は褐色。傘にはトゲが生えている。
- その他特徴：成熟すると傘が破れて胞子が悲惨する。それが耳や目に入るとキノコが生えて来るという都市伝説があるため、夢野は毒キノコとして登場させたのかもしれない。
- 食べ方：若いものは食べられるが、あまり食用には向かない。

草鞋茸 (ワラジタケ)



- 正式名称：不明 (古くなった草鞋に生えるキノコの古い呼び方。正確な種類は不明)

《参考》

Wikipedia (各キノコのページ)
 きのこナビ <http://www.kinoko-navi.com/>
 きのこ図鑑 <https://www.kinoco-zukan.net/kitsunenorousoku.php>
 著・小宮山勝司, 山田智子『きのこ』山と溪谷社
 文・堀博美, 写真・榊井亮, 監修・吹春俊光『ときめくきのこ図鑑』山と溪谷社
 著・奥沢康正, 奥沢正紀『きのこの語源・方言事典』山と溪谷社
 《背景素材》
<https://jp.freepik.com/free-photos-vectors/background>

おまけ キノコカード

ハツタケ



ベニタケ科 チチタケ属 5~10cm

毒タイプ Lev. 0 ☆☆☆
おいしさ Lec. 3 ★★

季節：夏~秋
発生場所：アカマツやクロマツなどのマツ科
針葉樹林の地上

吉田博士からの紹介：

キノコ村の村長さん。皆より少し早めに地上に姿を現し、それぞれの成長を見守ってきた存在。キノコ村に起こった出来事や、「きのこ会議」の議事録を新聞として発行することが趣味。普段は温厚で優しい性格だが、新聞発行後はその感想を村のキノコたちにしつこく聞いて回るため、その点のみ皆に迷惑がられている。

演技のモデル：村山富市さん？

マツタケ



キシメジ科 キシメジ属 3~12cm

毒タイプ Lev. 0 ☆☆☆
おいしさ Lec. 3 ★★

季節：夏~秋
発生場所：アカマツ林の地上、クロマツ、蝦夷マツなどの木の下

吉田博士からの紹介：

キノコ村の地主一家に生まれた、お坊ちゃま育ちの、品のいいおじ様。責任感が強く、村のみんなを守りたい気持ちを全面に押し出す、情熱的なキノコ。しかし、世間知らずなところが玉にキズ。身だしなみのために、とてもいい香りのするコロンを常に身に付けているが、それが人間に好まれ、育ちきらないうちに収穫されてしまう直接の理由だということは、知る由もない。

演技のモデル：高橋英樹さん？

シイタケ



ツキヨタケ科 シイタケ属 6~8cm

毒タイプ Lev. 0 ☆☆☆
おいしさ Lec. 3 ★★

季節：春・秋
発生場所：ミズナラ、クヌギなどの広葉樹の
倒木

吉田博士からの紹介：

キノコの代表格とも言える、キノコ of キノコ。そのため、みんなに憧れの目を向けられ、知らず知らず持ち上げられ、可愛がられてきた。しかし、それを鼻にかけ、お高くとまることもなく、いつも笑顔で皆と接するシイタケは、いつしかキノコ村の『会に行けるアイドル』へと成長していった。しかし、そんなシイタケに対して「天然ぶっていけ好かない」「あんな顔して実は腹黒い」など、あまりいい感情を持っていないキノコがいることも否定出来ない。人間と同じく、好き嫌いが大きく分かれる存在である。

演技のモデル：前田敦子さん？

テングタケ



テングタケ科 テングタケ属 5~25cm

毒タイプ Lev. 0 ★★
おいしさ Lec. 3 ★★

季節：夏~秋
発生場所：コナラなどの広葉樹林の地上

吉田博士からの紹介：

キノコ族の繁栄を第一に考え、その教えを説くべく日々毒キノコに叱咤激励を繰り返す厳格なきのこ。自分の毒の精度を落とさないよう、朝5時からのランニング、スイミング、筋トレならぬ菌トレを怠らない。最近では自分にコミットする『茸ザップ』にも通い始め、そのストイックさはますます磨きがかかっている。実は松茸とは幼少期からの知り合いでライバル。松茸の人のいい性格を好まず、「そんなんだからお前はひ弱なのだ」と会う度に嫌味を言っている。しかし、本当は、毒を持たないキノコとも共に『茸ザップ』に通い、菌トレしたいと思っている。

演技のモデル：仲村トオルさん？

Podcast ののラジオ
好評配信中！



視聴・購読はこちらから
<https://gekidannono.com/wp/archives/podcast>
ご意見・ご感想はこちらへ
radio@gekidannono.com

劇団ののと読む名作文学 夢野久作 『きのこ会議』 Podcast 版

発行日 令和元年5月25日
著者 夢野久作
編集 劇団のの
発行 劇団のの
[https://gekidannono.com/
radio@gekidannono.com](https://gekidannono.com/radio@gekidannono.com)

※本文は、青空文庫様掲載の原文を加工したものです。
底本 『夢野久作全集7』三一書房
初版 1970(昭和45)年1月31日
初出 「九州日報」1922(大正11)年12月4日
図書カード URL
<https://www.aozora.gr.jp/cards/000096/card46694.html>

